

1. 令和2年度(2020年度)の事業報告

市民活動総合センター指定管理第4期(4年間)2年目は前年度から続く新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、期首から緊急事態宣言にて臨時休館や開館時間短縮等での施設運営における多様な変更を余儀なくされたが、当初掲げた運営方針(7項目)を基にコロナ禍で社会変化に対応しながら、各6分野事業の実施目的に則して取組を遂行した。

【運営方針】

- (1) 公平・平等・公正を基調とした運営
- (2) 「公設市民営」の推進
- (3) 施設活用の向上及び市民活動パブリシティの強化
- (4) 社会関係資本の再構築と受信力の向上
- (5) 災害ボランティアセンター及び他機関連携の推進
- (6) G(ガバナンス)・C(コンプライアンス)・D(ディスクロージャー)の推進
- (7) 第三者評価・支援機関の設置と提言

【各事業分野実施事業概要】

(1) 情報収集・提供

①. 情報コーナーの有効利用での推進

- ・同コーナーにIT設備(PC・カメラ・通信機器等)を整え、オンライン会議利用として運用を展開し、10月より利用者統計を取り、利用ニーズを分析し、有効利用を展開した。
- ・平時は団体のミーティングスペースや活動報告の会場としても多様に活用した。

②. 情報ポータルサイトでの情報(イベント情報等)発信の拡充

- ・情報ポータルサイトに新型コロナウイルス関係専用サイト「コロナほっとかないポータル(通称:コロほっポ)」をリンクさせ、情報ポータルサイトでのページビュー数が大きく向上させた。情報発信ツールとしては、ホームページやFacebookよりも同サイトが有効的に活用できた。

③. 新型コロナウイルスにおける専用情報サイトの構築と発信(支援金等)促進

- ・コロナほっとかないポータル(コロほっポ)のページ閲覧件数は上期(5月~9月)に約11,000件、下期(10月~3月)では約6,500件と年間を通じて17,752件の閲覧数を得た。
- ・情報発信力強化として同サイト構築及び情報提供はコロナ禍における活動団体にとって非常に有益なサイトとして配信できた。

④. しみセンホームページの掲載情報アップデート及びコンテンツリニューアルの実施

- ・トップページのコンテンツ変更やコロナほっとかないポータルのバナーを掲載して、必要とする情報が直ぐにピックアップできる構成内容にリニューアルを実施した。

⑤. hotpot・チラシ等の有効な情報提供

- ・hotpot第72号(テーマ:はやり病)、第73号(テーマ:花の力)を各10,000部発行した。
- ・「しみセン紹介パンフレット」新版を作成した。

⑥. 従来の蓄積情報(各種団体情報)を基にデータベースの構築

- ・各種データの蓄積と精査を実施した。データベースシステム構築は次年度に開始する。

(2) 相談

①. 多様化する相談内容に対応するため、相談対応能力のスキルアップ

- ・新型コロナウイルスの影響による団体にとって必要な活用情報(支援金・助成金情報等)を職員全員で収集・共有して、各種サイトでの情報発信を展開した。
- ・一般社団法人に関する情報共有を全職員で実施した。

②. 相談事例の検証とコンサルテーション領域に係る事例の編集

- ・是迄の相談事例を掲載した「NPO 法人コンサルティング Book(設立編)」を発刊した。次年度には第二弾として同版「運営編」発行を企画している。

③. 専門家相談会においてニーズに即したテーマ別枠開設及び随時枠開催の展開

- ・相談希望者のニーズに応じるために期首設定枠以外で随時枠として、通年で会計(5回)・労務(6回)・広報(3回)の相談会を実施した。

④. 各種講座の運営方法として新しいスタイル(Web講座)の講座開発促進

- ・5月にアーカイブ形式(録画配信)でのウェブ講座(事業年度終了手続き)を開催し、8月～9月にかけてオンライン参加可能型講座(資金調達連続講座)を実施した。今後も来場とオンライン併設型を推進する。

(3) 育成

①. 無関心層・潜在的関心層を対象とした『公開講座』の開催促進

- ・市民活動支援チャリティ公開講座を年間4回開催し、多くの無関心層・潜在的関心層に対して市民活動への導入機会を提供することができた。
- ・全ての開催では来場型で行ったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を十分に講じて実施した。
 - 10/11「過去との対話～アートから未来を読む～」講師:やなぎ みわ氏 参加者 75名
 - 12/5「クリスマス・チャリティ・コンサート」演奏:京都ブラスバンド 参加者 124名
 - 2/13「新型コロナウイルスから人々を救うダチョウたち」講師:京都府立大塚本学長 参加者 94名
 - 3/28「正しさの unlearn(学びほぐし)～誰を支援するか」登壇:寮美千子氏・中村正氏 参加者 80名

②. 団体の組織運営における課題解決を題材とした講座の構築

- ・年間2回を予定していた「組織基盤強化:より良い団体運営のために」講座では、上半期は新型コロナウイルスの影響により中止となり、下半期は11/8開催(参加者4名)のみとなった。

③. 市民活動の資源循環を促進し、自治力向上を目指したコーディネートの実施

- ・期首からの新型コロナウイルスの影響が下期にも及びコーディネート(受入団体等)への実施が出来ない状況が続いたため実施不可となった。

④. スモールオフィス入居団体への課題解決支援の促進

- ・スモールオフィスの過去入居団体には団体の運営状況を熟知している利点を生かし、課題解決に向けて、様々な相談に応じた。
- ・今期中に新規で2団体「京都伝統文化交流会」・「ムーブメント21」が入居した。
- ・期中に「京都こうでねいと」が12月末にて退去、「お金でまなぶさんすう」・「トラフィックセーフ」・「家族支援と対人援助ちばっち」が3月末で退去となった。

(4) 連携・交流事業

①. 学生・企業・自治会/地域団体との連携・協働展開促進

- ・「学生」・「地域団体」連携では市縁堂 2020(オンライン市縁堂)の中で学生団体の参画やいきいき市民活

動センター(北・岡崎・東山)所在地域で活動する連携先団体(地域団体)と協働連携を推進した。

・他セクターとの交流では、以下の大学・地方自治体での講習を実施した。

■ 7/22：龍谷大学大石ゼミ(来館&オンライン講習)開催

■ 11/29：和泉市ボランティア/市民活動支援センター(アイ・あいロビー)視察にて講演を開催した。

②. 市縁堂参加団体の選定及び運営方法転換(集客型イベント→情報発信型イベント)

・コロナ禍に因り来場型運営回避策として参加団体や来場者を全てオンライン(Zoom)方法にて実施した。
・寄付募集の手段として、初めて「クラウドファンディング」に挑戦して、目標金額 50 万円を達成した。

③. 全いきいき市民活動センターとの事業運営協力や協働推進

・「出張講座」の提案を継続し、11月に岡崎いきセンにてオンライン形式で実施した。
・北いきセン・岡崎いきセン・東山いきセンと「市縁堂 2020」での連携推進を実施した。

④. ボランティア・コーディネートでの情報発信を強化(SNS・紙媒体等)および整備・拡充

・期首は新型コロナの影響に因り、団体の活動自粛で提供する情報が減少していたが、11月より情報量を約3割増にて発信した。なお、通年では対前年比では約50%に留まる結果となった。

(5) 施設管理

①. 新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながらの施設運営促進

・期首から期末まで継続して新型コロナウイルス感染症拡大防止対策措置を徹底して運営した。
・4月10日～5月6日まで施設閉館期間の利用者への案内・対応および6月1日からの施設利用・講座開催においても感染防止対策を充分に考慮しながら運営を実施した。

②. フロアスペースの有効活用の促進

・情報コーナーおよびミーティングルームでのオンライン会議利用者増加にて効果的な運用を実践した。

③. 来館者の利用機器(PC・印刷機等)の保守・管理を徹底し、利用満足度向上

・各種使用機材は経年劣化により各機材の消耗が激しいが、随時部品交換にて対処している。
・利用者アンケートの実施において、94%がセンターの雰囲気が良い・大変良いとの回答を得ている。

④. 館内設置機器(空調・照明等)の維持・修繕に努め、利用者の快適な作業環境の提供

・フロア照明 LED 化では部分交換は終了しているが、全面 LED 化は次年度に交換を予定している。

(6) 京都市災害ボランティアセンター

①. 災害発生時での共同運営機関(京都市・市社協)と速やかな連携と有事への備えの推進

・「連携先との体制作り」・「民間からの資材・資金支援」など多様な面での備えについて協議を進め、可能な範囲で配備を進めている。

②. 全国での災害発生時での積極的な被災地支援活動推進

・今年度は被災地支援の実施は行われなかった。

③. 平時、運営会議参画と共に市及び各区の防災訓練にも積極的な参加

・年3回(7月・10月・3月)運営会議の実施した
・7/2「府立東陵高校」にて災害支援者育成目的でのキャリア講座を開催した。
・12/8 区役所・区災害ボランティアセンター担当者向け研修会を開催した。
・12/20 一般参加者向け「災害ボランティア入門講座」を開催した。
・1/26「災害時要配慮者支援研修会」を開催した。